

ケインズの予言・ミードの脱成長・女性解放運動の闘い



Toru Yamamori

- * (1) 月々一定額(仮に10万円としましょう)が、
全ての人に支払われるとしたら、人びとは、どの
ように行動するでしょうか？
- * (2) 月々一定額(仮に10万円としましょう)の給
付を受けるとしたら、あなたはどのように使いま
すか？ 暮らしや働き方は変わりますか？

0. ベーシックインカムとは



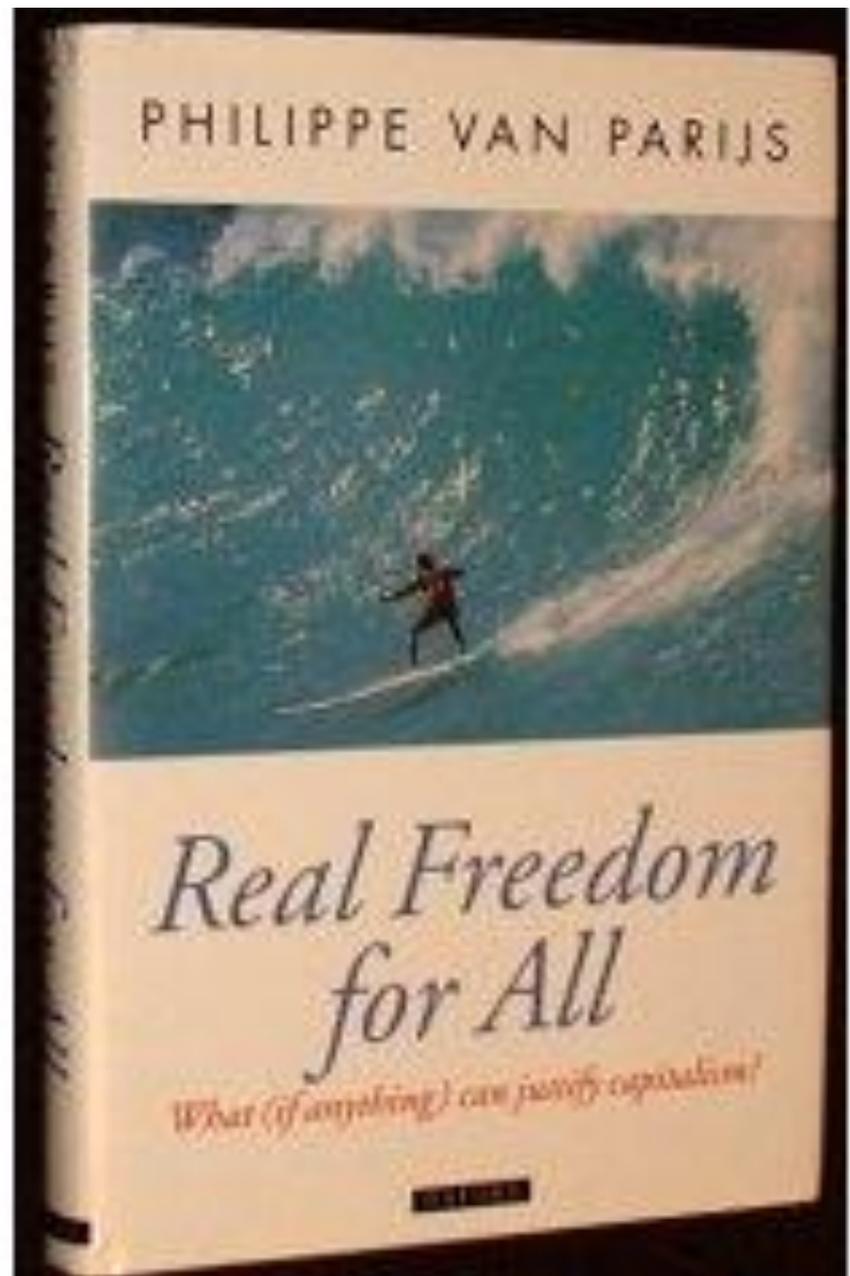
- * ベーシックインカム(BI)とは、資力や稼働能力の活用の有無にかかわらず、個人単位で、全ての人に無条件で定期的に行われる現金給付である。
 - 1.定期的：一括給付ではなく、定期的な支払い
 - 2.現金給付：何に使うかを個人が選べるような適切な交換手段による支払い。従って、現物給付や使用目的が限られている様なバウチャーによる給付ではない。
 - 3.個人単位：世帯単位ではない
 - 4.普遍的：資力調査なしで全ての人に
 - 5.無条件：稼働能力の活用やその意思を問わない
- (Basic Income Earth Network[BIEN] 2016年7月大会決議)



- * 2016年BIEN総会参加者の多数は、以下のようなBIを支持する。すなわち、BIの給付水準と頻度は安定しており、また給付水準は、他の諸社会サービスと結びついて、全ての個人の物質的貧困を解消し、社会的文化的参加を可能にする政治的戦略の一部として、十分に高いものであること。
- * また私たちは、[BIと引き換えに]諸社会サービスや諸権利が廃止されることに、それが相対的に不利で傷つきやすい、あるいは所得の低い人々の状況を悪化させる場合には、反対する。

1. はじめに

学者の論理
vs.
運動の論理



1. はじめに



- * 消されたBI運動
- * 象牙の塔の外側でのBIの歴史を書く必要性

2. AI がBIをもたらす？

* 2016年1月ダヴォス世界経済フォーラム

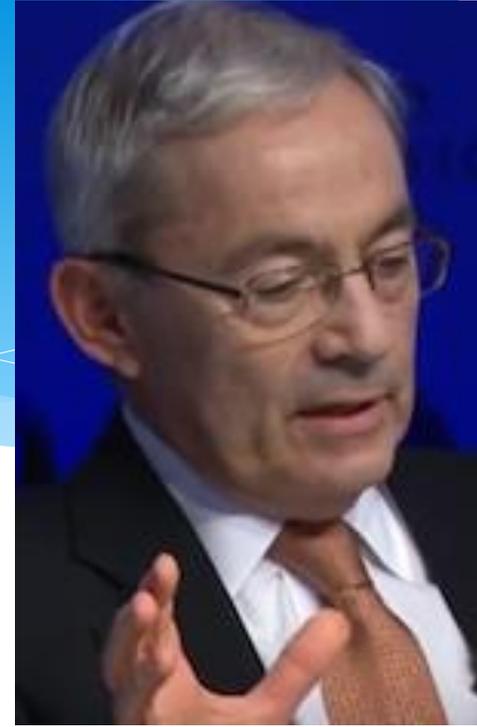


Dileep George

Machines ... get better than humans. And we will be able to produce more, with much less humane effort. ... We have new technologies – which create new forms of careers and jobs. What will probably change is our definition of ‘what earns you an income – what earns you a living?’ But probably our meaning of life – of ourself can be detached from how much money we make from our work.in the sense that you don’t have to work to get a basic income.

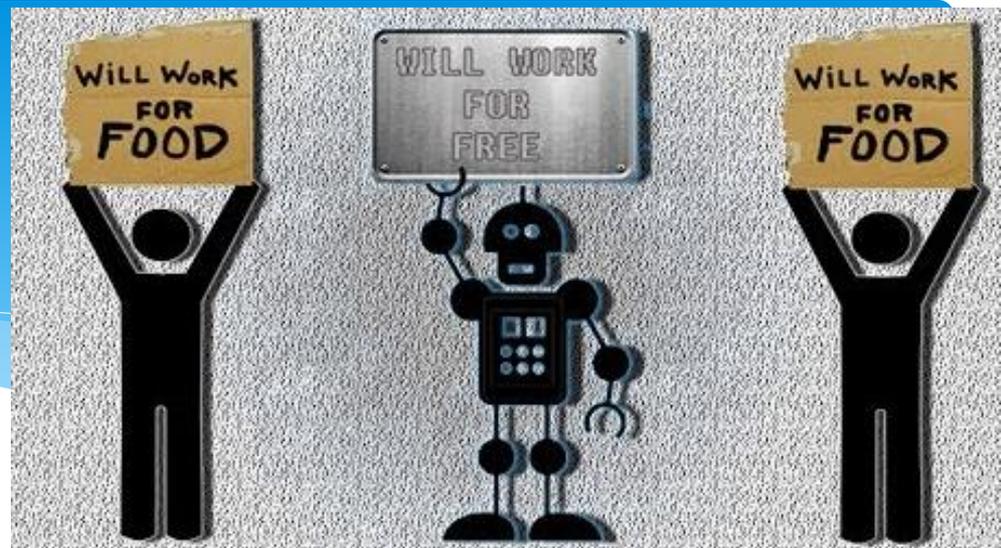
2. AI がBIをもたらす？

The pie is growing bigger, there is no guarantee that everyone will benefit if we leave the market alone..... So we need to develop a new system of redistributions, new policies that will redistribute inevitably from those that the market would have rewarded in favour of those that the market would have left behind. Now, having a universal minimum income is one of those ways, in fact, it is one I am very much in favour of.....



Christopher
Pissarides

2. AIがBIをもたらす？



- * (1) 技術的進歩が社会を豊かにするので、貧困などの経済的問題は解決する

→BIの可能性

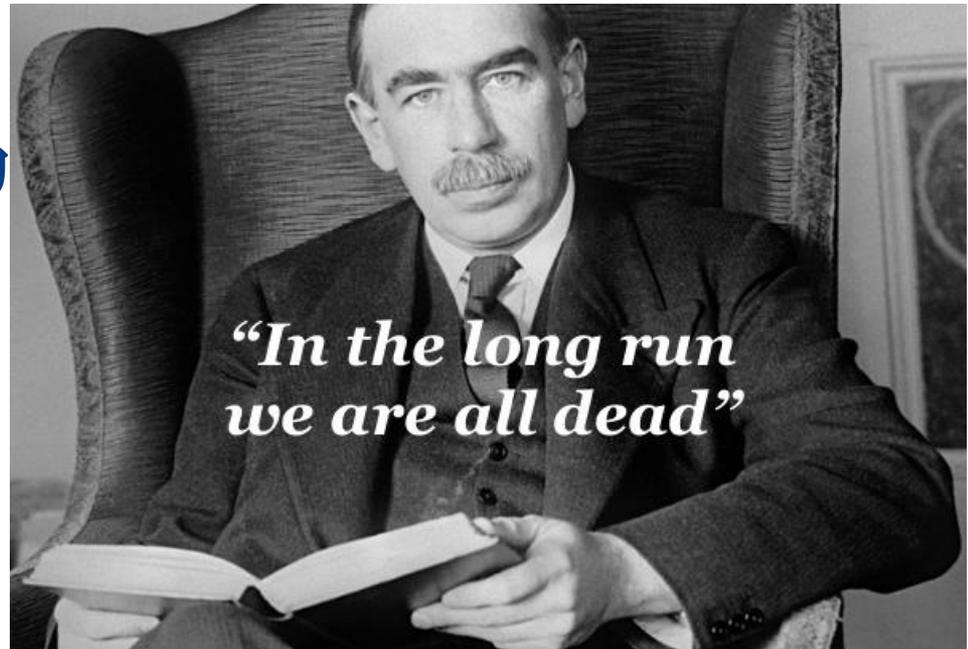
- * (2) 技術的進歩は「仕事」の数を減らす

→BIの必要性

3. ケインズの予言

- * 「孫の世代の経済的可能性」
(1930)

- * 技術の効率が急速に高まって、労働力の吸収という問題を処理できなくなっている（技術的失業）
- * 長期的にみて、人類は経済的な問題を解決しつつある。2030年に先進国の生活水準は1930年の4倍から8倍に



* 余暇が十分にある豊かな時代が来ると考えたとき、恐怖心を抱かない人は

いないだろう。人はみな長年にわたって、懸命に努力するよう躰けられてきたのであり、楽しむようには育てられていない



* 残された職を分かち合うべき = 1日3時間労働



* 偽りの道德原則(貪欲・高利・金銭愛)を棄て、勞せず紡がざる野の百合を尊敬するように



ケインズはどこで間違えたのか？

経済成長 ◎

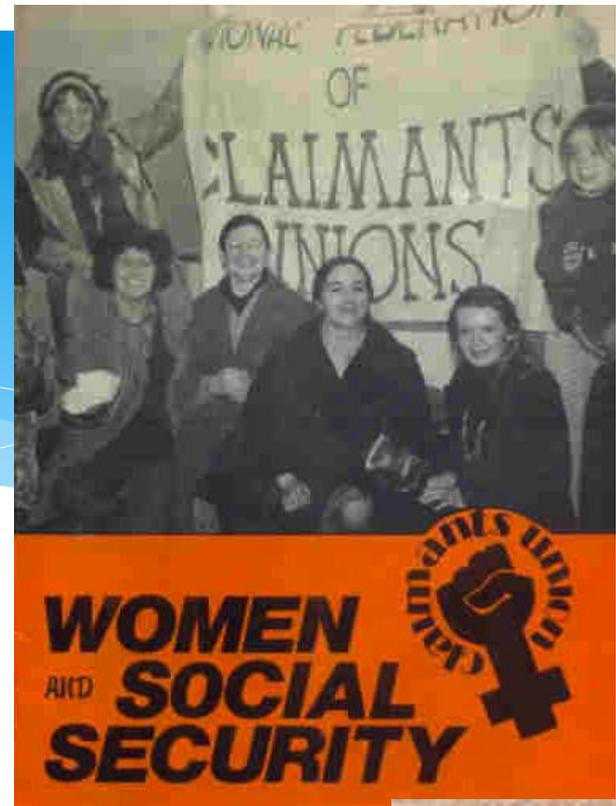
技術革新 ◎

1日3時間労働 ✕

野の百合のように生きる ✕



答えは、20世紀後半
最大のベーシックインカム
運動に？



4. BIを要求した労働者階級の女性解放運動BI



- * 要求者組合 (Claimants Unions) 運動: 1968 - c.1987
- * 半数以上が女性

4. BIを要求した労働者階級の女性解放運動

- * BIを主要な要求項目に: 1970 – c.1987
- * より広い保証所得 ‘a make-up guaranteed income’などと区別された無条件のBIを学者たちよりも先に明確化
- * 全英女性解放会議でBIを
女性解放運動全体の要求項目とする動議をだし、可決される(1977)



5. 女性解放運動の視点からケインズの予言を再考する

* 共通点:

- 現行の分配システムの変化
- システムの背後にある規範の変化



5. 女性解放運動の視点からケインズの予言を再考する

* 相違点:

- existing waged work = socially necessary work (Keynes)

≠

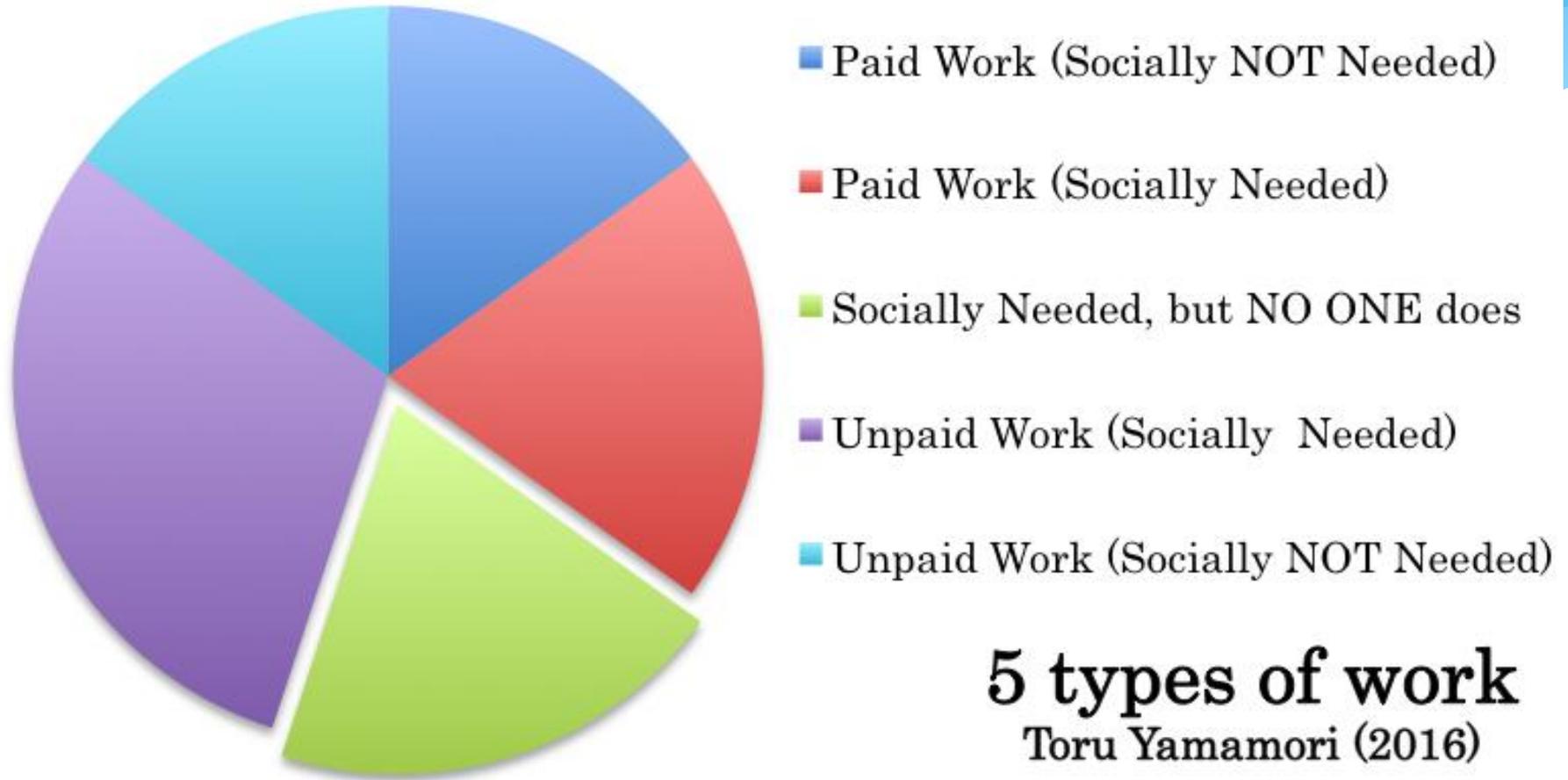
(CU women)

- new moral code:

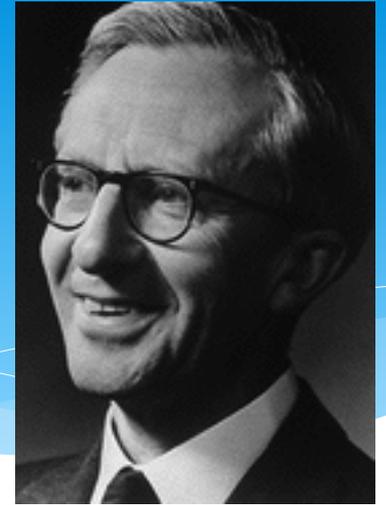
honouring the lilies of the field (Keynes)

honouring people who work for caring others (CU women)

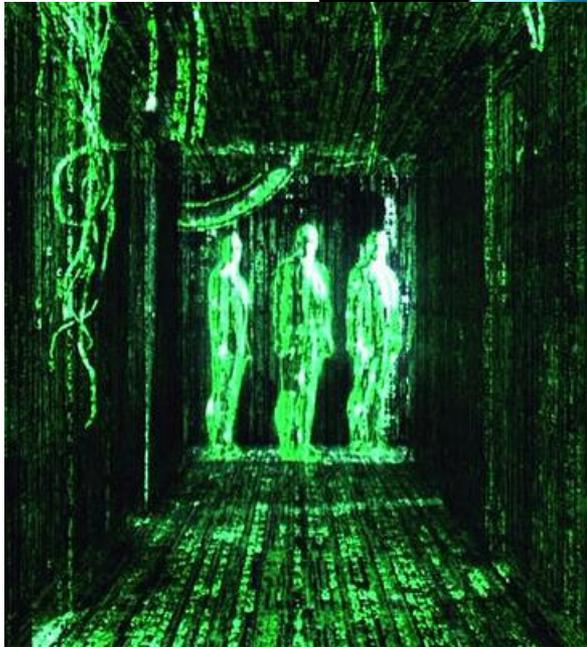
5. 女性解放運動の視点からケインズの予言を再考する



Cf. ジェイムズ・ミードの 労働ディスインセンティブの擁護



- * 1907-1995
- * 1930年代からBI論者
- * 「様々な経済活動に伴う...汚染、資源利用のもたらす深刻な外部不経済、...これらの活動は、それらの社会的費用すべてをまかなうための、例えば租税...などを課すことで抑制されるべきだ...[BIのための]稼得所得への課税が余暇への選好をふやすということは、このような可能性の一つの例となりうるということである」(1972)
- * 1977「ノーベル」経済学賞



未来は
スタートレックか、
マトリックスか

選択は私たちの手に